平成２９年度第２回広島県県営林管理経営評価委員会　議事録

１　日時
平成３０年３月１４日（水）１４時００分から１５時２０分まで

２　場所
広島市中区基町１０－５２　県庁本館１階１０２会議室

３　議題
第１号議案　平成３０年度県営林年度実施計画について

４　担当部署
広島県農林水産局森林保全課（県営林経営改革担当）
電話　082-513-3694（ダイヤルイン）

５　会議の内容
（１）開会
①林業振興部長あいさつ
②委員会の成立
委員全員の出席を得ており，広島県県営林管理経営評価委員会運営要綱第４条第３項の規定により委員会が有効に成立していることを報告
（２）議事
事務局から第１号議案について内容を説明
審議の結果，諮問のとおり承認

６　議事審査の内容
別紙のとおり

７　会議資料
（１）第１号議案　資料１「平成３０年度県営林年度実施計画（案）について」
第１号議案　資料２「平成３０年度県営林年度実施計画（案）」

別紙「議事審査の内容」

（事務局）	資料１（第１号議案）：平成３０年度県営林年度実施計画（案）について 資料２（第１号議案）：平成３０年度県営林年度実施計画（案） 参考資料１：平成２９年度県営林事業の取組状況 参考資料２：第Ⅱ期農林水産業アクションプログラムの概要 について，資料に基づき説明
（委　員）	確認したいのですが，中期管理経営計画に対して，平成２９，３０年度の年度別事業計画の面積，材積，特に平成３０年度は材積が少ないようですけど，織り込み済みだったのでしょうか。
（事務局）	各年度の計画につきましては，当評価委員会でご審議いただいているところです。中期管理経営計画との乖離で大きいのは利用間伐です。過去３年間やってきて，利用間伐については，収支がプラスになることが必要であり，そういった事業地が当初より少なくなっているのが現状です。 今の状況を見ますと，２８５ｈａがある程度の目安ではないかと考えております。当初，事業地は，条件の良い適地が多かったのですが，４年目，５年目なると数値的にちょっと下がっているのが現状です。
（委員長）	収支計画については順調に推移している。量的には減っているけど，単価は確保しているという意味ですか。
（事務局）	そうです。
（委員長）	平成２９年度の実績見込みについては，年度が明けた次回の評価委員会で報告するということで，今年度あとわずかですが，収支の見通し，見込みのところの達成の目途というのはいかがでしょうか。
（事務局）	参考資料１の２ページ収支見込をご覧ください。先ほど売上高を説明しましたが，利用間伐の収支見込についても，安全側を考慮し見積単価を下げています。最終的には３億３千万円余の売上高の確保を想定しております。したがって，現在見込みの経常利益についても，５百６０万円余を上回る見込みです。先ほどの１月末の単価を考慮しますと，経常利益についてはある程度確保できるものと考えております。
（委　員）	参考資料１の５　収支見込の営業外収益について，備考欄を拝見すると，適用補助事業の組み合わせによる補助金の増とありますが，どういったことでしょうか。
（事務局）	はい。平成２９年度の計画段階では，利用間伐などの補助事業に造林公共事業と次世代事業の二つの補助事業を想定していたものを，実施に当たっては，造林公共事業について，補助金額が高い補助事業となる，いわゆるＴＰＰ事業，正式名では合板・製材生産性強化対策事業を導入し，有利な補助事業に置き換えることによって，約１，３００万円収支改善に寄与しております。
（委員長）	平成３０年度実施計画の中でも実施段階において同じような改善策に取り組む予定ですか。
（事務局）	はい。当初計画では，平成３０年度も平成２９年度と同じ考え方で行っています。できる限り有利な補助金を活用し，収支の改善に取り組んでまいりたいと考えています。
（委員長）	平成３０年度収支計画の保育のところの販売管理費で，作業道補修箇所の減でコストの減となり，保育の経常利益に影響してくると思いますが，作業道の場所など条件

	が影響しているということですか。
（事務局）	作業道に関する平成３０年度計画については，平成２９年度の実績見合いで整理しており，このため，３０年度は若干下がっております。
（委員長）	わかりました。
（委　員）	合板・製材生産性強化対策事業はＴＰＰ関連ということで，継続して今後もありそうですが，３０年度計画には織り込まれているのですか。
（事務局）	予算については，県の予算編成時の１２月の段階では国の予算の状況がわからないこともあり，不利な条件を多めに予算化しました。おそらく有利な補助事業が使用できると思われますので，実施の段階で有利な補助事業が適用できれば活用したいと考えています。
（委　員）	立木販売について，計画していた入札が終了した段階で，県営林全体の収支の状況を勘案し，立木販売の今年度の取組を１１月に終了したということですが，どのような判断をされたのですか。
（事務局）	木材販売収入とか補助金収入を勘案し，県営林事業全体で収支を計算しましたところ，経常利益の確保が見込まれたことから，立木販売を追加する必要がないだろうといったことで，１１月で立木販売を終了しました。
（事務局）	補足しますと，立木販売について計画の１００ha には達していませんが，県営林事業全体で経常利益の確保が見込まれたことや，１件入札を増やしますと，それに付随する調査費が別途発生するため，費用が増えることから，全体の収入と支出の見通しをたてて，立木販売については１１月に終了いたしました。その結果，面積が減少しました。材積につきましては１００ｈａでヘクタールあたり２５０㎥の計画たてており，実際調査しますと，多いところで３７２㎥とか実際と異なりますが，面積の減少により計画には達しておりません。
（委　員）	わかりました。
（委　員）	不落で，予定価格に達しなかったということで，予定価格について，これまでの経験を踏まえながら設定をしたり，不落の原因なども考察した方が良いのではないのでしょうか
（事務局）	予定価格の設定に際しては，こちらの方で丸太の単価を決定し，販売経費を差っ引く，市場価逆算方式で算定しております。 不落の原因につきましては，先ほどの説明のとおり，搬出条件が悪かったことがございます。市場や製材工場まで距離がある，中間土場が無いなどを後から業者の方に聞取りを行っております。
（委　員）	わかりました。
（委員長）	一つ確認なのですが，参考資料１の生産性の向上について，今年度から財団の直営が無くなったということで，請負業者に調査するアンケートを実施すると伺ったのですが，実際問題どこまで正確にアンケートが返ってくるかということで，先方としては高い生産性を主張する動機がないので，そのあたりの工夫は何かありますか。
（事務局）	調査に慣れていない事業体もいると思われるので，調査様式を含めて検討したいと考えています。 また，高い生産性を出すと委託料が減らされるなどといった誤解を招かないよう，調査の趣旨や様式などを整理したいと考えています。

（委員長）	ありがとうございます。
（委員長）	再度，ご意見やご質問はございませんか。
（委員長）	ご質問，ご意見が無いようですので，それでは本委員会としての審議に入ります。 第１号議案については，「原案のとおり」承認することといたしますが，ご異議ございませんでしょうか。
（委　員）	異議なし
（委員長）	知事への答申につきましては，ただ今の審議での各委員のご意見を踏まえ，事務局で案を作成し，私と調整してください。
（委員長）	それでは，審議会を終了したいと存じます。 皆様には，終始，熱心にご審議をいただき，また，議事運営にご協力をいただきまして，誠にありがとうございました。 以上をもちまして，本日の審議会を閉会したいと思います。